

今年度の指導の重点	津山っ子の学びを高める “3つの提案” 6つの取組
<p>「夢」「愛」「学び」を拓く広戸っ子の育成 ー 元気・やる気・本気・根気ー みんなが輝く広戸っ子 めざす子ども像 ○にこにこ挨拶 思いやりのある子ども ○こっこつ学習 進んで学ぶ子ども ○いきいき生活 たくましい子ども ○わくわく体験 よく働く子ども</p>	<p>□学習や生活のルールを全教職員で共有して児童生徒や保護者へ提示している 当初【 B 】 年度末【 】 □授業の中で学習のめあてを持たせめあてについて振り返る場を設定している 当初【 B 】 年度末【 】 □言語活動充実のために話し合う活動を大切にしている 当初【 B 】 年度末【 】 □学習のねらいに応じてICT活用等による多様な学習を工夫している 当初【 C 】 年度末【 】 □授業で学んだことが振り返ることができるような家庭学習の仕方を提示している 当初【 B 】 年度末【 】 □家庭地域と共に育てるためにHPや通信等で発信している 当初【 B 】 年度末【 】</p>

※達成度 「S:目標を大きく上回った(100%超)」 「A:目標を十分達成できた(85%以上100%未満)」
 「B:目標を概ね達成できた(70%以上85%未満)」 「C:目標をある程度達成できた(50%以上70%未満)」
 「D:目標をあまり達成できなかった(30%以上50%未満)」 「E:目標を達成できなかった(30%未満)」

調査結果について(調査結果において明らかになったこと)	
<p>【学力状況調査の結果】 全国(小学校) ○国語A、B、算数A、B、理科全てにおいて県平均より正答率が低い。 ○算数Aの「図形」の領域については、理解できている児童が多い。 ○国語A、Bともに、「書くこと」の領域で課題がある。 県(小学校【3年～5年】) ○昨年度はどの学年もほとんど県平均を下回っていたが、今年度はどの学年も国語、算数ともに県平均を上回っている。 ○国語では、指定された長さで文章を書くことに課題がある。(4・5年) ○算数ではどの学年も、問題を解きそれを説明するなどの、表現力に課題がある。</p> <p>・目的に応じて必要な情報を捉える :本校78.6%(全国73.9%) ・直径の長さや円周の長さの関係 :本校71.4%(全国55.6%) ・数量関係を理解し、数直線上に表す :本校42.9%(全国66.7%)</p>	<p>【学習状況調査の結果】 全国(小学校) ○放課後や週末の、テレビ視聴やゲームやインターネットをする割合は県平均に比べて高い。 ○家庭学習をしているが、予習復習を意識している児童は少ない。 ○家庭学習を1時間以上する児童の割合は県平均に比べて低い。 ○家で読書を30分以上する児童の割合は、県平均に比べて低い。 ○自主学習に取り組む児童は多い。 ○スマホを自分で持っている児童は少ないが、家族のものを利用して1時間以上する児童が数名いる。 県(小学校5年) ○あいさつがすすんでできている児童は、県平均より高い。 ○平日にゲームを1時間以上する児童の割合は県平均より高い。</p> <p>・地域の行事に参加 :本校85.7%(全国62.7%) ・自分の考えがうまく伝わるよう工夫して発表 :本校35.7%(全国61.3%)</p>

成果	課題
<p>○校内で漢字指導や授業の流れを統一したことにより、漢字の読みの力や基礎基本の力が少しずつ付いてきた。 ○毎日の授業で「めあて」「まとめ」「ふりかえり」を意識して書くことで、分かったことや苦手なことに気づき意欲的に取り組むことができてきた。 ○朝学習に取り組むことで、4教科の基礎基本を少しずつ身につけることができた。 ○放課後学習で活用問題に取り組み、問題文を読み込むことへの抵抗を減らすことにつながった。 ○校内でテストの結果を分析し、課題を共通理解することで、苦手なところに取り組むことができた。</p>	<p>○主語、述語、修飾語などの文法に抵抗がある児童が多い。 ○字数を指定されたり、段落を指定されたり、条件付きで文章を書くことを苦手としている。 ○考え方を解釈して説明を記述することを苦手としている児童が多い。 ○家庭学習(特に自主学習)の質に改善の余地がある。 ○全学年、テレビやゲームなどの時間が少しずつ増え、生活習慣の乱れが見られる。</p>

何を(改善すべきこと)	いつまでに(成果検証の期限)	どこまで(対象と達成目標の設定)	どのように(方策)	達成状況(12月末現在)	達成度	達成状況(年度末)	達成度	次年度への改善点・重点課題
○字数制限や、段落指定などの条件を理解し、それに合った文章を書く。	○2学期に秋チェックを行い、課題に対してどれだけ習得できているか検証する。	○求められている条件を理解し、それに合った文章を書く。	○放課後学習などで活用問題に取り組みながら、書くことへの抵抗を減らしていく。 ○授業でも書く活動を積極的に取り入れる。 ○書いたことをほめたり、正解例を示す。	○書くことへの抵抗感は少しずつなくなってきたが、文章に合わせた書き方となるとまだ難しい。	B			
○自分の考えをもちそれを順序立てて説明できる。	○2学期に秋チェックを行い、課題に対してどれだけ習得できているか検証する。	○問題文や選択肢をしっかりと読み取る力をつけ、算数の問題など実生活でも活用できるようにする。	○家庭学習で問題データベースを活用し、繰り返し定着を図る。 ○個人の課題に合わせたプリントに取り組みさせる。 ○授業でも書く活動を積極的に取り入れる。	○算数での考え方など、式と言葉を使いながら少しずつ説明できるようになってきている。	B			
○家庭学習の定着と充実を図る。	○1、2ヶ月に一度、研修の時間に家庭学習の状況を交流する。	○各学年、決められた時間を意識した時間に家庭学習を行う。自主学習の習慣をつける。	○授業でも書く活動を積極的に取り入れる。 ○家庭学習の手引きを再度確認させる。 ○自主学習ノートを展示したり、月ごとに全校が見える場所に掲示したりして、意欲を持たせる。	○自主学習ノートを掲示し、終業式では、各学年一人を表彰した。家庭学習の内容を研修の時間に交流した。	A			

※達成度 「S:目標を大きく上回った(100%超)」 「A:目標を十分達成できた(85%以上100%未満)」 「B:目標を概ね達成できた(70%以上85%未満)」
 「C:目標をある程度達成できた(50%以上70%未満)」 「D:目標をあまり達成できなかった(30%以上50%未満)」 「E:目標を達成できなかった(30%未満)」

小中連携の取組	保護者・地域へ理解・協力を求めること
<p>○県・全国学力学習状況調査の分析を基に教科学力の向上を目指した授業改善の取り組み ○家庭学習の手引きの共有化 ○「ノーマディアにチャレンジ」週間を設け、家庭での過ごし方を家族で見直す機会を作る。(勝北中ブロックで同期間に取り組む) ○①靴揃え②チャイム着席(教職員も、チャイムに始まり、チャイムに終わらせる)</p>	<p>○家庭学習の手引きをもとに、家庭学習の習慣化を呼びかける。 ○自主学習への取り組みを通して、予習と復習を意識づける。 ○ノーマディアや「生活リズムきらカード」の取り組みを通して、生活習慣について意識できるよう積極的に呼びかける。 ○メディアに関する資料を借りたり講演会をしたりして、保護者の管理意識を高める。</p>